

言語の壁を超えて
伝え合うための発明

広島県立尾道特別支援学校
中学部第2学年 大藤 遼太

言語の壁を超えて伝え合うための発明

広島県立尾道特別支援学校聴覚障害部門

中学部二年 大藤 遼太

家族全員がテレビに釘付けになった時間が
ありました。それは東京オリンピックの開会
式です。本来ならば、二〇二〇年に開催する
予定でしたが、コロナウイルス感染症拡大の
ため一年延期になりました。しかも、無観客
だったのも、どんな開会式になるだろうと思
って見ていました。でもその不安はすぐにな

くなりました。開会式の中で僕が感動したの
は、ピクトグラム演技です。特に水泳のピ
クトグラムです。なぜなら、水泳だけはピク
トグラムを指で表現していたからです。エ夫
がしてあり、かっこ良かっただです。

そのピクトグラムが作られたとき、かけは、
一九六四年の東京オリンピックです。絵文字
あるいは絵ことばという意味です。絵こと
ばは一九六四年の東京オリンピックのアー
ト・ディレクターの勝見勝士人によって考案

されました。

ピクトグラムは一九六四年の東京オリンピックだけで使われていたのではなく、その後世界中に広がりました。僕の身近なところにも、エシバーター、非常口、階段、スロープのピクトグラムが学校にあります。さらに、街中にある道路標識にもピクトグラムが使われています。ピクトグラムは、文字がなくても何を表しているかが分かるので優れています。だから、子どもからお年寄りまでみんなが分かるし、言語が異なる人でも分かります。すばらしい發明だと思います。

一九六〇年に来た外国人旅行者の数は、二二三万人でした。一九六五年では、三六六万人に増えました。その理由は、東京オリンピックをきっかけにして、外国人がテレビで日本の様子を見て、「日本に行ってみたい」と思ったからだと考えられます。きっと東京オリンピックで広まったピクトグラムも、観光客増加に一役かっていると思います。

前回と同様に、東京オリンピックをきくか
けに観光客が増えると予想されます。その時
に注目されているのが、翻訳機です。理由は、
世界中の人たちと会話が簡単にできるからで
す。翻訳機があれば、もっと日本を楽しんで
もらえるでしょう。また、僕のように聴覚障
害があっても言葉が文字で表示されれば、だれ
でも話したくなります。今までは、日本語
を話す人でも声だけの人とは話すのがあまり
好きではなかったし、日本語以外を話す人と

話すのは、難しいと思っ
ていました。ところが
ら翻訳機が普及すると、
声だけの人も話し
やすくなるし、日本語以外を話したく
なります。また、僕たちは音声認識で
声も文字化す
る。機器やアプリを使いやすくなるし、
みんなに使うのも
らいます。今後は、
翻訳機が、ピク
トグラムに代わる
素晴らしい発明として世界中に
広がると思います。

＜指導者の言葉＞

国語科の単元「身近な出来事」において、夏休みの思い出作文を書く活動をしました。本生徒が思い出として取り上げたのが、令和3年の東京オリンピックの開会式のピクトグラムのパフォーマンスでした。初稿では、「ピクトグラムはおもしろい。」という感想に留まっていました。

そこで、次のとおり指導の工夫を行いました。

① 国語科の教科書教材との関連付け

教科書(国語☆☆☆☆)の教材文「いろいろな標識」を丁寧に読むようにしました。そこから、標識がどのように素晴らしいのか、どのように役立っているのかについて気付くことができました。

② 他教科学習との関連付け

社会科で学習した歴史の内容とも合わせて、昭和39年前後の日本の状況について本やインターネット等で調べました。そこから、ピクトグラムやオリンピックの効果について考察を述べるができるようになりました。

これらの工夫により、作品の内容に深みをもたせることができました。

また、今回の作文だけでなく、普段から本生徒の日々の興味・関心と教科等の学習とが繋がることを意識しています。

(例) ○グラフを読み取る能力(数学科・理科)

○千を超える数字の大小を比べる能力(数学科)

○昭和時代の様子の知識(社会科・生活単元学習)

○自己の障害への理解(自立活動)

○標識への興味・知識(小学部の生活単元学習)

○書籍から知識を得る体験(各教科等)

さらに、日頃からタブレット型端末を学習に活用していることから、音声認識機能や文字情報でのコミュニケーション手段への興味・関心が高く、今回の作文の意欲的な創作に繋がりました。